

どの子どもも輝き
笑顔いっぱい
とねがわ幼稚園

よい頭・よい躰・強い体

とね幼だより



明けましておめでとうございます

園長 笛木 哲

令和2年の幕が開けました。令和2年も、未来への贈り物である子どもを中心に、輝く笑顔でいっぱいの幼稚園にしていきたいと思います。



子ども一人ひとりのよりよい成長を願って

私たちは、基本的に「ほめて伸ばす」保育を進めています。個人面談などでも幼稚園生活の中で見られる子どものよいところや活躍している姿を伝えするようにしています。保護者の皆様は、担任からの褒め言葉をニコニコ笑顔で聞いてくださいます。ところが、「いいことばかりですが、悪いところはないのでしょうか？」と聞き返される方は多いものです。子育てになかなか自信がもてないこと、我が子をほめないことを美德と考える日本人の気質などに原因があるのかもしれませんが。

どの子どもも今を一生懸命に生きています。大人の思考（常識）からはみ出してしまうような言動も、子どもにとっては輝きにあふれる好奇心の現れであり、悪気なくやっつけている場合が多いのです。子どもは毎日のように失敗し、大人の常識を越えた言動で叱られてしまいます。しかし、その失敗から、集団で生活するためのルールや相手の気持ち、大切な価値など多くのことを学びます。偉人の伝記を読むと、子どもの頃の失敗が、後の人生を豊かにする原動力になっていることを教えてくれます。

失敗して、しょげている子どもの姿を一つずつ確認し、「なんて悪い子」なんてレッテルを貼られたらたまったものではありません。もちろん人に迷惑をかける行為やルールを無視した言動は許しませんが、失敗の中にあるその子らしい思いや優しさ、意欲や情熱を共感することが、子どもの自信を育て、安心して次の体験に突入していくエネルギーの源を与えることになるはずです。

悪いところをなくしても、よさが伸びるわけではありません。悪くなくなっただけ、大人に都合のよい子になっただけのことです。不思議なことです、ほめて良い面を伸ばすことで、子どもの悪い面が見えにくくなります。一人ひとりのよりよい成長のためには、失敗をしない子を育てることではなく、失敗から学ぶ子を育てることが大切です。そして、子どもの良さは、大いに認めてあげたいし、自慢したいものです。ぜひ、私にお子さんの自慢話をお伝えください。

子どもの輝く姿（令和元年 12 月）

- 全園児が「靴そろえ」に取り組んでいますが、慌てていたりすると靴をそろえ忘れてしまうことがあります。A君は、自分の靴をそろえると、友だちの下駄箱にも必ず目を向け靴をそろえます。そして「やってやったよ」なんて一切言いません。
- サッカーをやりたいという子ども達が、自分たちで考えた3つの約束を持って私のところへ交渉に来ました。自ら考え行動する子ども達に感動し、許可しました。それからしばらくしてのことです(12/9)。昼休みに、満3歳児がサッカーゴールの下で座っていました。B君は満3歳児が動くまで、ボールを蹴らずに待っています。その様子を見た職員が満3歳児に聞くと、「お兄ちゃんをここで待っている」とのことでした。B君に伝えると怒り出すのかと思ったら、「それなら違う遊びをしてくる。」と一つもシュートをせずに颯爽と去って行きました。B君だけでなく他の子ども、小さな子にボールを貸してあげたり、相手に応じて手加減して蹴ったりと、自分たちが決めた約束をちゃんと守って遊んでいます。言葉で言っただけでなく、そのこと守って誠実に行動できる子ども達は、まさにとねがわ幼稚園の自慢です。

園児が輝く時 ※毎日、HP「園長ブログ」で「その日の写真」を掲載しています。よろしかったらご覧ください。

		
<p>ひよこ組 お母さんが見えなくなると泣いていた子がゲーム遊び</p>	<p>こぐまサークル(小さいクラス) クリスマス会にサンタさんも来ました。</p>	<p>クリスマス会 サンタクロースさんからプレゼントをもらってニコリ。</p>
		
<p>年少さん 皆で食べる給食はとても美味しかったよ。</p>	<p>年中さん 生活発表会の振り返りで絵を描きました。</p>	<p>年長さん 練習をいっぱいしたら一輪車に乗れたよ。</p>